

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月31日

協議会名: 和歌山県生活交通対策地域協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
和歌山バス那賀株式会社	紀北巡回線 紀の川市貴志川支所～紀の川市貴志川支所(那賀病院経由)	関係自治体との共同企画として、期間限定の無料お試乗券を全戸配付し、利用の促進及び認知度の向上に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	運送収入減により、輸送量が前年度の水準を下回った。	関係自治体と協力して、地域住民の運行に対するニーズを調査し、利便性の高いダイヤを提供し、利用促進に努めていきたい。
	岩出樽井線 岩出駅前～樽井駅前(根来経由)	関係自治体と協力して、沿線地域の方々にヒアリングを実施し、運行に対するニーズの把握に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。	関係自治体と協力して、地域住民の運行に対するニーズを調査し、利便性の高いダイヤを提供し、利用促進に努めていきたい。
	粉河熊取線 粉河駅前～熊取駅前(犬鳴山経由)	関係自治体と協力して、沿線地域の方々にヒアリングを実施し、運行に対するニーズの把握に努めた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	運送収入減により、輸送量が前年度の水準を下回った。	関係自治体と協力して、地域住民の運行に対するニーズを調査し、利便性の高いダイヤを提供し、利用促進に努めていきたい。
大十バス株式会社	海南線 登山口～JR海南駅(重根経由)	利用地域の方々へのヒアリングを行い、ダイヤ、使用車両を検討	A	計画通り適切に実施された。	B	利用者数は、年々減少しているが、大幅な減少は見られない。	地域住民、コミュニティへのヒアリング継続
中紀バス株式会社	白崎御坊線 白崎西～大浜通り(由良駅経由)	実態把握に努め、利用状況をみながら運行時刻等の見直しを行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	少子化により通学利用者が減少傾向にある。 輸送量目標人16.3に対し15.3人。	利便性向上の為にダイヤ改正や病院や観光施設とタイアップを図るなど、利用促進に努める。また、HPを活用して情報提供を充実させる。
	湯浅線 由良駅～済生会(衣奈・湯浅町役場経由)	実態把握に努め、利用状況をみながら運行時刻等の見直しを行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。	利便性向上の為にダイヤ改正や病院や観光施設とタイアップを図るなど、利用促進に努める。また、HPを活用して情報提供を充実させる。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
御坊南海バス株式会社	日高川線 御坊南海バス前～川原河(高津尾経由)	沿線自治体とダイヤの見直し、また施設に時刻表を配布し利用促進につながるよう努力した。	A 計画どおり実施した	B 自家用車の普及、学生の減少等により利用者は減少傾向にある。	今後も自治体と協議し、観光客誘致を行い、利用促進につながる時刻、経路等検討していく必要がある。また、貨客混載の取組を検討し、収入の増加に努める。
	日裏線 御坊南海バス前～日裏(崎の原経由)	沿線自治体とダイヤの見直し、また施設に時刻表を配布し利用促進につながるよう努力した。	A 計画どおり実施した	B 自家用車の普及、学生の減少等により利用者は減少傾向にある。	今後も自治体と協議し、観光客誘致を行い、利用促進につながる時刻、経路等検討していく必要がある。また、貨客混載の取組を検討し、収入の増加に努める。
	阿尾線 御坊南海バス前～アメリカ村(比井・阿尾経由)	沿線自治体とダイヤの見直し、また施設に時刻表を配布し利用促進につながるよう努力した。	A 計画どおり実施した	B 自家用車の普及、学生の減少等により利用者は減少傾向にある。	今後も自治体と協議し、観光客誘致を行い、利用促進につながる時刻、経路等検討していく必要がある。
	日の岬パーク線 御坊駅～海猫島(和田経由)	沿線自治体とダイヤの見直し、また施設に時刻表を配布し利用促進につながるよう努力した。	A 計画どおり実施した	B 自家用車の普及、学生の減少等により利用者は減少傾向にある。	今後も自治体と協議し、観光客誘致を行い、利用促進につながる時刻、経路等検討していく必要がある。
	湯浅線 済生会病院～権保橋(湯浅駅経由)	沿線自治体とダイヤの見直し、また施設に時刻表を配布し利用促進につながるよう努力した。	A 計画どおり実施した	B 自家用車の普及、学生の減少等により利用者は減少傾向にある。	今後も自治体と協議し、観光客誘致を行い、利用促進につながる時刻、経路等検討していく必要がある。
	印南線 御坊駅～印南町役場前(下楠井経由)	沿線自治体とダイヤの見直し、また施設に時刻表を配布し利用促進につながるよう努力した。	A 計画どおり実施した	B 自家用車の普及、学生の減少等により利用者は減少傾向にある。	今後も自治体と協議し、観光客誘致を行い、利用促進につながる時刻、経路等検討していく必要がある。
龍神自動車株式会社	熊野本宮線 紀南病院～道の駅奥熊野(紀伊田辺経由)	乗客の利便性向上の為、各系統間の乗継や、ダイヤ等の見直しを行った。	A 計画通り事業は適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成できた	外国人観光客を含め、利用しやすい受入環境の整備(バス停や、運賃表示器、方向幕等の多言語化表記)
明光バス株式会社	熊野線 田辺駅前～栗栖川(朝来経由)	当社HP、時刻表パンフレット等により利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。	当地域では自家用車利用が主でバス利用者は交通弱者、特に高齢者や子供が多く、いかに利便性を向上しても、自家用車利用者をバス利用に呼び込むにはパークアンドライド等自家用車を含んだネットワークとしての交通施策を実現出来るかが大きな課題となる。
	白浜田辺線 三段壁～田辺駅前(富田橋・上富田庁舎前・文里経由)	当社HP、時刻表パンフレット等により利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。	また、生産性向上として当社は従来から、白浜温泉及び熊野古道への外国人観光客対応・誘客を推進しているが、各系統の収入増加には、地域と一体の観光PRが重要と考える。(熊野外国人観光客交通対策推進協議会立ち上げH29.5)
	白浜田辺線 三段壁～田辺駅前(白浜駅・医療センター前経由)	当社HP、時刻表パンフレット等により利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。	既に一企業の努力だけでは限界に近く、さらなる路線統廃合と観光取込みの検討が必須である。現在、国・県の補助金だけでは埋まらない欠損額の補填を地元自治体にも要請している。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
熊野交通株式会社	新勝線 新宮駅～勝浦駅(黒潮公園前 経由)	事業計画の適正な実施、目標・ 効果も達成できた。	A 事業計画の適正な実施、目 標・効果も達成できた。	A 事業が計画に位置付けられた目標 を達成した	地域旅客の増加は厳しく自治体とも協議し、観光客誘致を 行い利用促進に努めたい。
	新勝線 新宮駅～勝浦駅(新翔高校前・ 上地経由)	事業計画の適正な実施、目標・ 効果も達成できた。	A 事業計画の適正な実施、目 標・効果も達成できた。	A 事業が計画に位置付けられた目標 を達成した	地域旅客の増加は厳しく自治体とも協議し、観光客誘致を 行い利用促進に努めたい。
	新勝線 新宮駅～勝浦駅(市立医療セ ンター経由)	事業計画の適正な実施、目標・ 効果も達成できた。	A 事業計画の適正な実施、目 標・効果も達成できた。	B 事業が計画に位置付けられた目標 を達成できていない点があった。 主となる総合医療機関(医療センター)への利用が収入に 輸送量目標20.8人に対し、20.3人。	地域旅客の増加は厳しく自治体とも協議し、観光客誘致を 行い利用促進に努めたい。 主となる総合医療機関(医療センター)への利用が収入に 影響するため、その減少傾向が課題。
	川丈線 新宮駅～本宮大社前(川湯温 泉・湯の峰温泉経由)	事業計画の適正な実施、目標・ 効果も達成できた。	A 事業計画の適正な実施、目 標・効果も達成できた。	A 事業が計画に位置付けられた目標 を達成した	30年度(29年10月～)からは、土屋屋系統を本宮大社前ま での運行、温泉経由の一部ダイヤを統合した再編を実施 し、減便となった温泉経由は市の単独補助路線へ移行し た。
	川丈線 新宮駅～土屋(請川・熊野本 宮経由)	事業計画の適正な実施、目標・ 効果も達成できた。	A 事業計画の適正な実施、目 標・効果も達成できた。	A 事業が計画に位置付けられた目標 を達成した	地域旅客の増加は厳しく自治体とも協議し、観光客誘致を 行い利用促進に努めたい。
奈良交通株式会社	八木新宮線 八木駅～新宮駅(ホテル昴経 由)	・生活利用は減少傾向にある 中、外国人も含めた来訪者の 利用促進により輸送量の確保 に努めた。 ①ノンストップバス(補助対象) 3両追加導入(H28.10)に伴い、 原則全便ノンストップバスに置 き換え。同車両を活用し、沿線 をPRする各施策、(A)和歌山 県・奈良県及び沿線7市村をPR するラッピングを実施、(B)「き んてつ鉄道まつり2016 (H28.10)」出展 を実施 ②本宮地区の他社競合路線再 編(H29.10.1)に合わせ、関係者 間協議の上で、(A)停留所時 刻表・系統図を英語対応に変 更、(B)来訪者にわかりやすい のりば位置・停留所名称に変 更、(C)系統番号の付与 等を 実施。 ・奈良県五條市内で五條病院 玄関口への乗り入れや、国道 168号バイパスへの一部載替に よる走行環境向上を図った (H29.4.1実施)	A 一時期、崩土に伴い不通区 間が生じたものの事業は概 ね適切に実施できた	A 少子化による通学利用減はあった が、前年度に比べ崩土・規制等 による区間運休が少なかったこと、 来訪者の利用が確保できたこと から、輸送量が増加した。(28年 度17.1人→29年度18.0人)	・訪日外国人を含めた来訪者の利用を確保する施策に引 き続き取り組む ①熊野外国人観光客対策推進協議会の取組に参画し、 表示物等のわかりやすさ向上に取り組む ②スマートフォン向けのバスロケーションシステム導入 (H30年度) ・生産性向上の取り組みに掲載された内容の検討を行う。
三重交通株式会社	熊野新宮(A)線 新町～新宮駅前(阿田和経 由)	運転免許自主返納者に対する 路線バスの割引制度を拡充・ サービス拡大することにより、 運転操作ミスによる事故防止 のため自主返納を働きかけると 共に、利用促進に努めた。	A 所定の事業計画どおりの運 行が実施された。	B 輸送量目標44.0人に対し41.7人。	昨年に引き続き、沿線自治体に利用促進の働きかけを 実施し、系統維持に努める。
	熊野新宮(B)線 大又大久保～新宮駅前(熊野 市駅前・阿田和経由)	運転免許自主返納者に対する 路線バスの割引制度を拡充・ サービス拡大することにより、 運転操作ミスによる事故防止 のため自主返納を働きかけると 共に、利用促進に努めた。	A 所定の事業計画どおりの運 行が実施された。	B 輸送量目標16.1人に対し15.6人。	輸送量が補助要件の下限ギリギリに落ち込んでおり、沿 線住民のニーズ等を把握しながら利用促進を働きかける 必要がある。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月31日

協議会名:	和歌山県生活交通対策地域協議会
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持改善事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>和歌山県内に営業所を持つ乗合バス事業者は、平成28年3月31日現在で14社、車両数341台であり、平成27年度における県内の乗合バスの輸送実績は、1,370万5千人と、ピーク時の19.2%となっている。</p> <p>乗合バスの利用に関しては、自家用車の普及、少子高齢化や人口減少、過疎化等により昭和46年度をピークに年々減少しており、バス事業者の経営悪化による路線の休廃止など、ますます利便の低下を引き起こしている。</p> <p>本県は、30市町村で構成されており、そのうち過疎関係市町村は、内陸部を中心に18市町村となっている。その85.6%が急峻な森林に覆われていることなどから、過疎地域の人口は県全体のわずか26.4%であり、65歳以上の高齢者人口の増加が顕著となっている。</p> <p>このため、特に鉄道のない内陸部においては、バス路線が高齢者の通院や学生の通学のために必要不可欠となっており、地域住民の日常生活における移動手段を確保することを目的に、県では、鉄道駅等と接続する広域的・幹線的なバス路線を維持するとともに、市町村が維持する地域内フィーダー路線とのネットワーク構築のため、当該事業を活用し地域の実情に応じた交通ネットワークの維持・充実に市町村とともに取り組んでいく必要がある。</p>